



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

2

医学
講話

ワクチン開発について

◆長寿医学研究所 所長 奥田 研爾

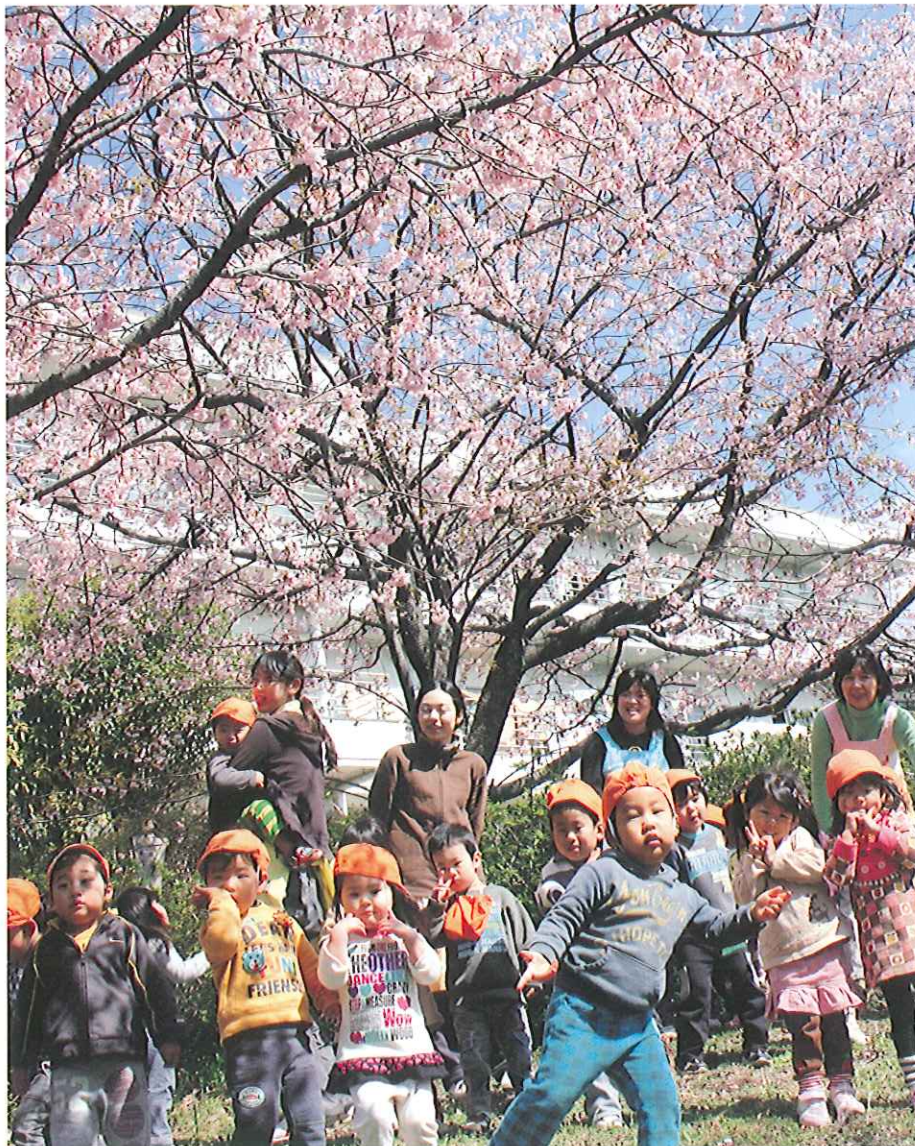
6

特集

福祉村開設30年

2010
vol.444

4





医学講話
Medical Lecture

ワクチン開発について

長寿医学研究所 所長

奥田 研爾

1、ワクチン開発の歴史

歴史的には天然痘が流行し、大問題となっていた当時、ジェンナーが、牛の天然痘ウイルス（ワッカ）をヒトに打ち、その接種した者は天然痘にならなかった、というのがワクチンの始まりである。ウイルス、あるいは微生物が天然痘を起こすなどとの考えが全く無い百数十年前にこのような予防法を開発したのは、全く慧眼と言うしかなく、大きな発見であると思われる。(図1)

勿論それには危険が伴い、



図1

年代	事象
紀元前23~79年	狂犬病の犬の肝臓で治療できるのではないかとGeius Plirinus (ローマの政治、博物学者)が示唆
1500年代	天然痘患者の痂皮を用いて予防に成功(中国)
1796年	Edwerd Jennerが牛痘ウイルスを用いて天然痘の予防に効果をあげる(予防接種)
1885年	Louis Pasteurが狂犬病ワクチンを開発
1890~1964年	Emil A. von Behningと北里柴三郎がジフテリアと破傷風のワクチンを創作
1900年代	チフス、コレラのワクチンの生産
1914年	破傷風ワクチンの実用化
1920年代	結核に対するワクチンの製造
1930年代	ジフテリアと黄熱ワクチンの生産
1940年代	インフルエンザと百日咳に対するワクチンの創製
1955~1960年	Jonas E SalkとAlfred B Sabinがポリオワクチンをそれぞれ開発
1960年代	麻疹と風疹のワクチンの製造
1968年	流行性耳下腺炎のワクチンの企画・製造
1970年代	髄膜炎菌関連疾患と水痘ワクチンの生産
1978年	各種肺炎に対するワクチンの開発
1980年代	B型肝炎と麻疹・流行性耳下腺炎・風疹混合ワクチンの実用化
1990年	インフルエンザ(髄膜炎症の起因菌)ワクチンの導入

表1 ワクチン開発の経過

その生きたウイルスで打った者が死ぬか生きるかの保証も無く、非常に危険な実験であった。中国等では、天然痘になった子供の服を他の人に着せる事や、一旦治った痂皮を擦る事によって、発熱は起こしたりする事はあるが、次の天然痘にはかからないという記載がある。その他、

色々な事をジェンナーが考え、ワクチネーションを始め、成功したものである。表1にそれら開発の歴史的な経過を示す。

学術的には、ジェンナーの百年後にバスターール等が出現し、微生物が多く感染症を主とする病気を引き起こすこと、その死菌等を免疫することに、破傷風や種々の微生物に対する抵抗性が出現するという実験が、理論的根拠を持って行われ、狂犬病、ジフテリア、その他多くの疾患がワクチンによって次々と克服されるようになって来た。次々と微生物が発見されそれらの大きさなども分かってきた。(図2)天然痘は約二十数年前に地上より無くなって来た、ワクチンの輝かしい歴史がある。

2、ワクチンの種類

今まで大きくは生菌ワクチン、死

菌ワクチン、トキソイドワクチンと分類されていたが表2に示すようにそれぞれの特徴がある。一般的にウイルスの生きた微生物で使ったワクチン(生ワクチン)は、感染防御能力が強く有効なものが多いが、一旦ホルマリンや加熱で不活化(死滅)したものを使用すると、体内に抗体は出現するが、その抗体を回避するもの、あるいは感染の阻止が出来ないような微生物が出現し、あまり有効で無くなるケースも多い。この五十年来、細胞性免疫(細胞)を

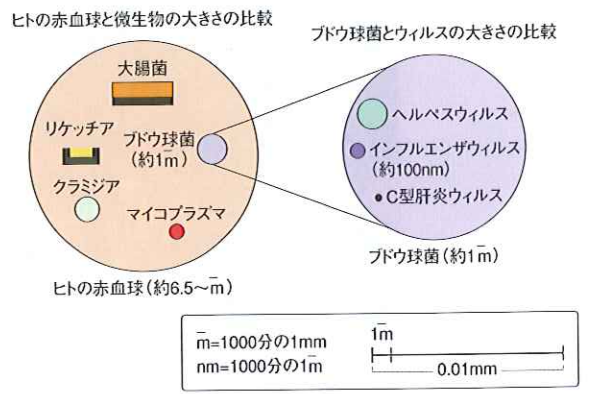


図2 各種病原体の大きさ

	特 徴	誘導される免疫	実 例
弱毒生ワクチン	生きた病原体	細胞性免疫 強い	BCG、ポリオ、麻疹
	健康人には病原性なし	液性免疫 強い	風疹、おたふくかぜ
不活化ワクチン	病原体を不活化(死菌)	主として 弱い	日本脳炎、狂犬病
	感染増殖能なし	抗体産生 弱い	ウイルス病
成分ワクチン	感染防御抗原	抗体産生 弱い	インフルエンザ
	副反応因子を除去		百日咳
トキソイド	無毒化した細菌毒素	抗体産生 弱い	破傷風、ジフテリア
	タンパク		
DNAワクチン	防御抗原をコードする	抗体産生 弱い	開発しつつある
	プラスミドDNA	細胞性免疫 強い	
ウイルスベクターワクチン	防御抗原をコードする	抗体産生 強い	開発中
	ウイルスベクター	細胞性免疫 強い	

表2 ワクチンの種類

主とする免疫、あるいは自然免疫などの活性化を強めようとするワクチンの研究はなされてはいるが、実用化されるには至っていない。最近注目されている、パピローマウイルスによる子宮頸癌のワクチンが非常に奏効するし、子供のヒブワクチンや、肺炎球菌ワクチンも非常に有効であることが確かめられ、多く応用されて来つつある。ポリオなどの撲滅化へ向けても大変役に立っている。しかしながら、ワクチンがほとん

どの微生物に有効であるかということになると、現在のところ、有効でないものも非常に多い。例えば、緑膿菌、エイズ等、ワクチンは今のところ無い。インフルエンザなどについては、不活化や成分ワクチンが存在してはいるが、学術的な確実に多くに効くというインフルエンザワクチンは未だ完成されていなく、現在高病原性インフルエンザワクチン等の研究が盛んに行われて来ている。

3、ワクチン作りの困難点

一般に、非常にワクチンで作りにくいのにはHIV、インフルエンザ等のRNA型ウイルスであるが、このようなウイルスは変異が多く、一つのものに対してワクチンを作製してもすぐ新しく変異したウイルスが主流になって来て、無効になって来るのが早い。更に、HIVでは変異が極めて早く、極めて多くの種類のHIVが世界中に蔓延しており、変異の少ない、且つ有効な部分のみを入れたワクチンをバイオテクノロジーを使用

し、作製しつつある。抗生物質も、抗生物質と微生物との関係と同様、ワクチンも微生物とのいたちごっこが多い物もあり、現在、ワクチン研究者にとって大きな問題点である。

4、新しいワクチン開発

しかし最近微生物を標的にせず、アルツハイマー病の場合にアミロイドに対する抗体があれば治療効果があるという動物実験、あるいはヒトでもある程度、臨床試験が行われ、その様な体内に異物が出現してきて起こる病気などに対するモノクローナル抗体による排除が出来る様に、アデノ随伴ウイルス(AAV)などを使用した新しいワクチンも開発されつつあり、新しい分野に発展しつつある。また本態性高血圧、膠芽腫等のワクチンも開発されつつあります。その免疫原性も非常に強める方法も開発され、今後新世代ワクチンが開発されることを期待しております。

5、ワクチン開発の国内における問題点

国家補償などが余り無い、日本ではこの三十年間殆ど新しいワクチンが開発されず、麻疹ワクチンもあまり実施されず、ワクチン後進国であり研究者も多くない。ワクチンは副作用があると、会社が潰れると言われる程、国内の会社は被害を恐れ新規のものは開発しない。欧米ではエイズや種々の非常に必要性の高いワクチンに対しては、国家的保証を与えつつ、国で開発費を多く出している。日本ではこの二、三十年ほとんど副作用が無いと分かっている物以外は新しいものは開発されていない。インフルエンザはあまり予防的効果が無くても副作用は少ないということとで売られている。

政府も最近少し目覚め、インフルエンザワクチンを契機に、ワクチンをもう少し新しい方向に前進させようとの雰囲気が出てきたかな、と希望を持っています。

赤津 裕康

去る2月24日〜27日に、千葉県の幕張メッセで日本静脈経腸栄養学会が開催されました。

今回は「ヨーロッパにおける高齢者の栄養ケア」というヨーロッパ静脈経腸栄養学会会長の Dr. Cornel C. Siber 氏の講演内容と今後我々の病院、およびさわらび会にも広めて行きたい栄養アセスメントに関して報告します。

栄養サポートチーム (NST) の活動は1970年代に欧米での入院患者さん達の栄養状態が劣悪なために治療期間が延長し治療費が増えている事実が報告され注目を浴びるようになりました。一方、高齢者に対する栄養管理に関しては、1989年に国際老年医学会会議で「低栄養の

高齢者が多い反面、有用な栄養アセスメントツールが無い」と言う議論をきっかけに1994年にMini Nutritional Assessment (MNA) が誕生しました。これには認知症、寝たきりに対する項目もあり、高齢者施設や在宅高齢者の栄養評価としても有用であり、簡易バージョン (Short Form: MNA-SF) は6項目の質問形式で介護者でも5分以内に評価が終了するという優れたものです。すでに20カ国語に翻訳され、400本以上の臨床論文報告があり、早期に低栄養リスクを抽出し具体的な栄養介入の方法まで言及されています。

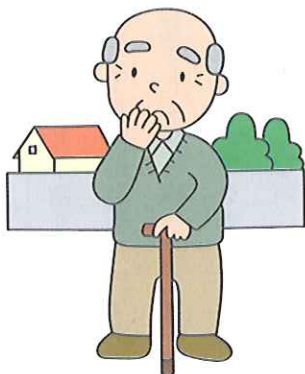
講演ではこのMNAの紹介と欧米での高齢者栄養管理の現状に関しての話が中心でした。高齢者の場合、生理的な加齢現象に加え、慢性的な炎症状態、抑うつ、認知障害という潜在的に栄養不良を来す状態にもなります。臨床栄養で栄養不良の特徴的一面を示す言葉として protein-energy malnutrition (蛋白質・エネルギー栄養失調症)、cachexia (悪液質・慢性疾患(主に癌)または情

動障害の経過中に起こる全身的な体重減少とるいそう(やせ)、marasmus (悪液質の末期・利用可能な体内の脂肪を全て飢餓のために使い果たした状態)、kwashiorkor (急性ストレス下での蛋白質摂取減少; 体脂肪・筋量は変化しないため一見栄養状態適正と判断されがちな状態) と言う一般医療人でもあまり聞かれない言葉が栄養状態を表すのに使用されてきました。高齢者の低栄養状態はさらに複雑であり、近年 sarcopenia (加齢による筋量の低下)、frailty (虚弱、いわゆる“よぼよぼ”) と言う概念が提唱されてきている現状も紹介されました。

しかし、sarcopenia/frailty という言葉の概念は研究者によって定義に若干の違いがあり、その医学的要因や効果的な介入方法に関してはまだまだ未完成の状態であり、高齢者の栄養管理が大幅に立ち遅れている現状も報告されました。

本邦ではやっとMNAが紹介され導入されつつある現状をみてもさらに高齢者の栄養管理は立ち遅れてい

るのが事実です。高齢者施設や長期療養型病院でNST活動を積極的にこなしているところはまだまだ少数派です。元気で長生きな日本になるために、さまざま健康状態のお年寄りが集われている福祉村からそのエビデンスを発信する事は極めて重要であると感じました。欧米のものが必ずしも良いというわけではありませんが、個人的にはMNAのスコアリング法も福祉村病院のみならず、さわらび会の高齢者施設でも一度取り入れてみて日本人にもそれが通用するのか、その是非を評価するため福祉村病院NSTが中心となって活動をしていく必要性も感じました。



福祉村グリーンロードの整備

グリーンロードがますますきれいになりました



私たちの福祉村では、四季折々の美しい自然が、一年を通して楽しんでいただけます。そして福祉村



には、このような豊かな自然にだれでも安心してふれることができ、森林浴を満喫できる道、「グリーンロード」があります。

グリーンロードは福祉村北西の森林の中にある道です。ここでは、福祉村を利用されるだれもが美しい木々の中を通り、森林浴をして楽しむことができます。

そして、今年初めの山本理事長への提案で「車いすでも安心して通れるようにグリーンロードの舗装をしていただきたい」という要望がさわらび職員からあがり、すぐにその意

見を取り入れられ、道が整備されることとなりました。グリーンロードがよりいっそうきれいにそして安全になり、車いすでも安心して通ることのできる全国的に見ても貴重なものとなりました。

春を迎え草木が華やかな季節になっていきますが、グリーンロードを通って豊かな自然を感じに行ってみてはいかがでしょうか。

(鳥居)



車いすのご寄付をいただきました

障害者支援施設 珠藻荘

積水化学労働組合テクノ成型支部の皆様は、年末社会福祉カンパで集めた募金で、毎年全国各地で車いすの寄付を行ってみえるそうですが、今年は愛知工場が福祉村の近くにあるご縁もあって、珠藻荘に車いすのご寄付をいただきました。

珠藻荘利用者や地域の皆様のために大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

(石田)



新しいリフト付車両が届きました

福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね

中央競馬馬主社会福祉財団・社団法人中京馬主協会からの助成事業を受けて、送迎用のリフト車両（車椅子4台、定員16名）が、新しくなりました。従来の車両が排ガス規制で使用できなくなるため、新しい車両購入のための助成をお願いしていたところ、財団からのご寄付をいただくことになり、実現しました。(石黒)



福祉村開設30年

医療法人としては48年。社会福祉法人としても33年の歴史を持つさわらび会が医療・福祉の総合保障基地として「福祉村」を野依の地に建設し、この4月で開設30年を迎えました。

福祉村という概念、言葉は30年前にさわらび会が日本で初めて考え、そして実現したシステムであり、今では日本中に福祉村という福祉保障基地が広がっています。そんな、時代に先駆けて建設された福祉村の30年を今回はご紹介させていただきます。

今から四八年前の一九六二年、脳卒中など、寝たきりのお年寄りの治療・リハビリのために豊橋市東雲町の地に山本病院を開設し、その後退院後の悲劇（病院で治療・リハビリを行い、症状が改善し退院して自宅に戻ると、症状が悪化して再入院されたり自宅で亡くなれたりする悲劇）を防ぐために一九七七年に特別養護老人ホームさわらび荘を開設した山本理事長は、お年寄りがいつも幸せに暮らせるようにするには、それを支える福祉サービスや福祉施設が整っているだけではなく、臨機応変の対応が出来る環境が必要だと考え、そしてお年寄りだけでなく、誰もが暮らせる所を作りたいと思いました。それが「福祉村」でした。

◇「福祉村」の始まり

福祉村建設への理念として、医療法人さわらび会四五周年記念誌に山本理事長が後述のように話をしています。



開設当初の福祉村

年をとればとるほど環境の変化に適応する能力は低下してきますので、病状や日常生活能力の変化とともに、施設を転々と変えられるのはよくないことです。できれば所謂、老人天国のように、すべての高齢者の施設が同じ敷地の中にあるのが理想的なのです。

また、施設を利用されてる人々にとって、すべての面で職員の世話を受けて生かされ続けるのも決して幸せではありません。高齢者でも、障害者でも、今、自分のできること、まわりの人々の役に立つ働きができて

ないと、幸せにはなれません。

そこで、自立を促進するリハビリ病院、授産施設と福祉工場などを中心に、更に、今自分のことができることで、まわりの人の役に立つ働きを見つけやすくするために、世代も違えば、障害の質も異なる人々が利用するすべての福祉施設をまわりに配置する場を作らなければならないと考え、そのために必要な約五万坪ばかりの土地を探して、東は浜名湖周辺から、西は伊良湖まで、くまなく走り回りました。

その頃、たまたま豊橋に技科大ができることが決まりましたが、その西隣の野依の荒地十数万㎡が売りに出されていることを知りましたので、早速、野依の人々との話し合いを持ちました。

当時、知的障害者の施設ができること、その付近の土地の値段が下がるから大反対と、まわりの地主達が騒いでいる記事が、新聞紙上にデカデカと載っていた時でしたから、その

土地を福祉村建設のために購入することには反対されるのではないかと大変心配しましたが、野依のみなさんは、福祉に大変ご理解があり、話はトントン拍子に進んで行きました。

そればかりか、福祉村の建設中も、その後の運営にも、野依の皆さんは非常に協力的でして、私達は野依の方へ足を向けては寝られないと言って、いつも感謝しております。

問題は、十万㎡という広大な土地の購入費でした。特養さわらび荘を建てるのに、それまでにためた貯金のすべてを使い果たしてしまいましたので、購入費のすべてを借金しなくてはなりませんでした。

そんな莫大な借金をすれば、山本病院は倒産してしまうから、絶対反対という職員が多かったけれども、みんなの幸せと健康を守るためには、どうしても必要だと考えて、その反対を押し切って、全額借金で土地を購入しました。



現在の福祉村

更に、病院や福祉施設だけのある場所では、そこで毎日暮らされる人々が、違和感を持たれるかもしれないと考え、なるべく普通の町のようにするために、喫茶やレストラン、日用品の売店、郵便局、お寺と公園なども作り、名前も福祉村と名づけ

ました。

更に、この福祉村を緑豊かな、そして四季いつでも美しい花の見られる町にするために、日々環境の整備を心がけてきました。

こうして出来上がった福祉村は、高齢者や障害者のための専門の病院と福祉施設のすべてがそろっていきすから、日頃ご利用いただく皆様達だけでなく、地域のみなさんの健康と幸せを守る総合安全保障基地としての役割も果たせますから、いつもすべてを開放し、地域の皆様に必要な医療と福祉サービスを提供してゆきたいと考えて居ります。

ご自宅にいらっしゃる高齢者や障害者の人々が、緊急に必要ななられたサービスを、いつでも、どなたでも、お気軽にご利用いただくための「福祉コンビニ」を現在までに二カ所（東雲町 6915666 弥生町 3819090）設置しましたが、今後、これをもっと増やして、いつでも皆様のご要望に応えら

れる体制をとってゆきたいと考えております。

また、阪神淡路大震災や中越地震などにボランティアした経験から、認知症や障害者の皆さんが、町の公民館や学校の体育館で、一般市民の人々と一緒に避難生活をされるのは、お互いに非常に辛いことがわかりましたので、近く発生が予測される東海地震の際には、認知症でも、障害者でも、安全に利用できる構造を持った建物があり、その上に、それぞれの専門家である職員がいる福祉村へ避難をしていただくこうと考えて着々と準備をしております。

ベッド、マット、毛布、衣料、オムツ、食料品などを購入して備蓄していますし、避難を希望される人々の移送の必要性も調査しております。更に、福祉村の職員も被災して出勤不能となる者が出ることも想定し、全国各地からいらっしゃるボランティアを適切に配分するセンターも作りました。

◇福祉村の今

こうして山本理事長の強い信念の元に出来上がった福祉村は、高齢者や障害者のための専門の病院と福祉施設のすべてが揃い、日頃ご利用いただく皆様達だけでなく、地域の皆さんの健康と幸せを守る総合安全保障基地としての大きな役割を果たしています。

また、設備面の充実だけでなく各事業所間のネットワークも充実してきました。「在宅医療福祉部会」「高齢者担当会議」「障害者担当会議」と、さわらび会の中核をなす3つの会議が相互に連携し、在宅・施設利用者を問わずお困りの方に対して必要な支援・サービスを迅速に提供させて頂くシステムも作り上げています。そんなさわらび会・福祉村の活動の様子についてすべてをご紹介することは難しいので、最新の活動の様子を通じてご紹介させて頂きたいと思えます。

認知症ケアへの取り組み

さわらび会では、認知症ケア学会認定の認知症ケア専門士の試験に七名が合格しました。認知症ケアに関し、患者様やご家族の役に立てるよう、努力していきたいと思えます。



前列左より五明晃代、櫻井靖恵、安形令子、富山理菜(福祉村病院)
後段左より遠山寛之(第二さわらび荘)
安達 薫、岡本克哉、富山尚洋(福祉村病院)
※他にも、平田幸代(福祉村病院)が合格しました。

これに伴い、二月二六日に、認知症ケア専門士を中心とした交流会を行いました。

若年性認知症患者様やそのご家族の思いを理解すること、また、それぞれの患者様にはそれぞれの歴史があるということ、改めて知ること

を目的に、患者様のご家族を招いてお話を伺いました。

「彼女は我が家の太陽です」

これはその時、ご家族が言われた言葉です。お嫁に迎えた日から、アルツハイマー型認知症の発症、現在に至るまでのご家族の思いなどを赤裸々にお話して下さいました。

三八歳でアルツハイマー型認知症を発症してから四年。今まで出来ていたことが徐々に出来なくなり、それでも何かをしてくれようとする。

そんな彼女に家族も出来そうな事を探す。「上手く出来ても出来なくても、ありがとう」と笑顔で言う事が大切なんです。そうすると彼女も笑顔になるんです。「こう言われ、認知症でも理解する事や感じる事がたくさんあると強く訴えられた姿が印象的でした。そして「息子の嫁が認知症になったけど悪いことばかりじゃない。そのおかげで家族のつながりが強くなった。」「病気は隠さな

くていい、隠すと家に閉じてこめてしまい、かえって周囲の誤解を招くから。」「昨日まで出来なかった事が、ふと出来るようになったりする。これが私たち家族の喜びになる。」など様々なお話をしてくださいました。認知症が進行しても尚「かわいくてしかたがない」と言うご家族の強い思いを知り、ご家族の考えている事や感じている事を知りました。今回の交流会で学んだ事をこれからの病院でのケアに生かしていきたいと思えます。(富山)



人材育成・研修

さわらび会では利用者様の幸せの実現のため、①さわらび大学 ②職階別研修 ③職種別研修 ④テーマ別研修 ④職場研修 とバリエーション豊かな研修制度を充実させ、職員の学習の機会を多くもっています。また、どの研修についてもさわらび会の中で情報共有し、興味のある研修にはいつでも参加できる環境を用意させて頂いています。左の写真はあかね荘での「ストレングス・モデルで作成する個別支援計画」長所（よい点）を活かして自立につなげる支援」研修の様子です。



子育て世代の職員が安心して働ける環境

子育て世代の職員（特に女性）が安心して働けるよう、福祉村内には「保育園」が整備されています。保育園では、子どもの発達段階に応じた専門性の高い保育を提供させて頂いています。また学齢期のお子さんみなどお子さんの長期の休みの際に安心して働いて頂けるよう「学童保育」も開設されます。



◇そして未来へ

多機能な施設群を持ち、豊かな支援ノウハウが集積された福祉村はこの地域の福祉総合保障基地として高齢者や障害者が高機能なサービスが必要になった時、また大規模災害等で地域生活が難しくなった時などの保障基地として重要な使命をもっていますので、福祉村の持つ機能のより充実を目指してゆかなくてはならないと考えます。

そして、市内各所に、福祉コンビニ等の地域支援サービスをより充実させ、「困ったら福祉村へ、福祉村での支援で自立力を高め、また地域生活へ。そして再び困ったら福祉村へ。」と、支援が必要になった方に対して常に寄り添い、必要になった時に迅速に的確な支援を提供する、これが私達の使命と考えます。「みんなの力でみんなの幸せを」の輪を広げ、さわらび会は未来永劫にわたり活動してまいります。

◎地域密着型サービス

「常盤（ときわ）」開設

平成二十二年十二月三日、豊橋市宮下町に小規模特別養護老人ホーム（定員二十九名 全室個室ユニット型）、認知症グループホーム（定員十八名）、認知症対応型デイサービス（一日定員 十二名）の地域密着型サービス「常盤（ときわ）」が竣工予定です。

宮下町は交通の便がよく、商業施設も充実しているなど立地条件が良いところであり、また、さわらび会の専門のスタッフがご利用者の状態にあったケアをさせて頂くことで、地域の方々の「みんなの幸せ」を実現できるように頑張ってまいります。（土井・渡邊）

◇山本左近選手よりのメッセージ

福祉村開設30周年
おめでとうございます



社会福祉法人の名称の由来

山本孝之

同じ病院で働いていても、部署が違えば殆ど顔を会わす機会のない職員達に、発表の場を提供することで、お互いの絆を深めてほしいと考えたことが第一、次に、開業して約十年がたつてましたが、その間、どこの病院もやってなかった脳卒中のリハビリを豊橋で最初に始めたり、介護職や痴呆療法士を創設したり、院内に老人学校を作るなど、全く独自の活動をする山本病院を、地域の皆様方にご理解いただく必要があると考えたためと、最後に、私達の日々の活動を記録し保存することが、歴史的な資料として将来必要になる時が必ず来ると考えましたので、月刊の院内報を発行することにいたしました。

(一九七三年五月 院内報第一号発行)

その院内報の名前を職員から公募したのですが、たまたま、私が提案した「早蕨」が、職員会議で採用されました。

なぜ早蕨なのか？

私も若い頃は、詩や和歌を好んで読むロマ
ンチリストでしたが、特に、萬葉集には惹か
れるものが多く、しばしば、繙いていました。
中でも、志貴皇子の

石ばしる垂水の上の早蕨の

萌え出づる春になりけるかも

寒くて長い冬がやっと終り、すべてが芽吹
く春が来た喜びを、素直にのびのびと歌いあ
げたこの歌が、萬葉集の多くの歌の中でも特
に大好きでしたので、院内報の名前として提
案したのです。

このさわらびは、その後設立した医療法人
や社会福祉法人、そして、特別養護老人ホー
ムの名前にもなつてゆきました。

また、次から次へと設立していった福祉施
設の名前にも、萬葉集から採るのが、慣習と
なつてゆきました。

福祉村に最初に作った身体障害者療護施設
には、

おみのおおきみ

麻績王 伊勢国伊良虞島に流される時人哀

み傷みて作る歌

打麻と麻績王白水郎なれや
伊良虞の島の珠藻刈り食す

麻績王これを聞き感傷して和ふる歌

うつせみの命を惜しみ浪にぬれ

伊良虞の島の玉藻刈り食す

から、珠藻荘と名づけました。

次の軽費老人ホームには、富士の高嶺をう
たつたことでも有名な山部赤人の、

明日よりは若菜採まむと標めし野に

昨日も今日も雪は降りつつ

から、若菜荘と名付けました。

翌年作った知的障害者更正施設には、天智
天皇とその弟君の大海人皇子のお二人から愛
された額田王が、湖畔の美しい蒲生野での天
皇主催のピクニックの場で、彼女が披露した

あかねさす紫野行き標野行き

野守は見ずや君が袖振る

これに対して大海人皇子は

紫草のにはへる妹を憎くあらば

人妻ゆえにわれ恋ひぬやも

と詠われたものから、あかね荘と名付けました。

次に作った知的障害者通所授産施設には、

天智天皇の第四皇女であられた阿閉皇女は日並皇子と結婚され、文武天皇を産まれましたが、その文武天皇が崩ぜられたので跡をついで即位して元明天皇となられ、和銅三年には都を藤原宮から寧楽宮に遷されました。その新しい都へ行かれる途中で、古都を見返られてうたわれたのが、

飛ぶ鳥の明日香の里を置きいなば

君があたりは見えずかもあらむ

この中の「君」は、文武天皇のことではないかと、私は勝手に解釈し、これを読む度に胸がしめつけられる感じがしますが、これから、明日香と名付けました。

病院の隣に建てた老人保健施設には、大伴

家持の

水鳥の鴨の羽色の青い馬

今日見る人はかぎり無しといふ

正月七日に青い馬を見た人は、寿限り無しと言われているこのおめでたい歌から、ジューゲムと名付けました。

次に作った、福祉村障害福祉サービス事業所には、子煩悩の山上憶良の

銀も金も玉も何せむに

勝れる宝子にしかめやも

から、しろがねと名付けました。

さわらび荘の前に作ったグループホームには、持統天皇が文武天皇に御位を譲られ、三河へいらつしやった時にお伴してきた長奥磨が、御津の引馬神社あたりの美しい景色をめで、

引馬野にほふ榛原入り乱り

衣にほはせ旅のしるしに

と詠んだものから、はりはらと名付けました。このはりはらはその後、場所を平川町に移し定員も十八名と増員し白珠へと発展してゆきます。

白珠は人に知られず知らずともよし
われし知れらば知らずともよし

元興寺僧侶

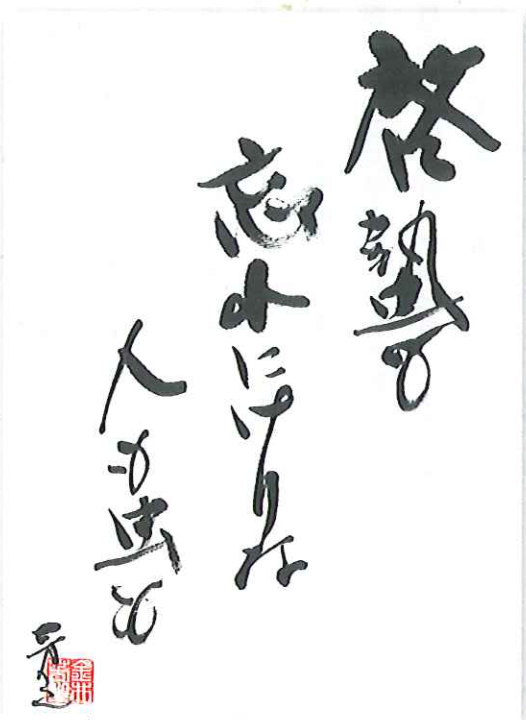
「白珠」(真珠)の真の価値を人は知らない。でも、他人は知らなくてもよい。誰も知らなくても、自分さえ知っていたらいい、という意。

八千種の花は移ろう常盤とこさわなる

松のさ枝をわれは結ばな

大伴家持

さまざまに美しい花は衰えてゆきます。常緑の松の枝に永遠の願いをこめて、私はそれを結びましょう。散る花より散らない常緑の松を不変のものとして大切に思うと言う意。今年12月、宮下町に開所予定の地域密着型施設、常盤はこの歌より名づけられました。



俳句浪漫

直筆の書で 季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



啓蟄も

忘れにけりな

人も虫も

年が明け、気がつけば立春も節分も過ぎ、三月六日は啓蟄、つまり地中で冬ごもりしていた生物（特に虫など）が地面の暖かさにつられ地上に出てくる季節のことを指す。この時期は三寒四温とも詠われ、それは気候も定まらない状態を表した巧みな四文字熟語である。しかし最近の地球温暖化を思うと、三寒四温もかなり様変わりしているようだ。つまり寒と温の差が極端過ぎるのだ。気温の変化は温度計を持たない虫の方が敏感であろうが、その虫たちも啓蟄に戸惑っているかのようだ。いわんや、

自然を無視して破壊してきた人間おやである。この先、自然はどうなるやら予測もつかない時代になってしまったようだ。



平成22年度 さわらび大学公開講座開講のお知らせ

☆参加費無料で
どなたでも受講できます

感染症予防のため、しばらく休講とさせていただきますさわらび大学を、4月より再開をさせていただきたいと思います。休講中は大変ご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんでした。

4月のさわらび大学

- 4月 8日(休) 「障害者福祉」
講師 ▶ 障害者支援施設あかね荘施設長 藤田 聡一郎
- 4月22日(休) 「高齢者福祉」
講師 ▶ 特別養護老人ホーム第二さわらび荘副施設長 長坂 敏幸

平成22年度のさわらび大学の開催

時間◎第2・4木曜日、午後3時～4時
会場◎福祉村病院会議室
尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

5月のさわらび大学

- 5月13日(休) 「認知症について」
講師 ▶ 福祉村病院副院長 伊刈 弘之
- 5月27日(休) 「薬・サプリメントの飲み方」
講師 ▶ 管理薬剤師 石黒 雅江

講義内容へのご意見・ご要望がございましたら、下記までお申し付けください。

◎お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若葉荘
☎ (0532)48-1138 ㊟ (0532)48-2365

いかり先生の
“お遍路さん”
 第45回
 写真に残らない人たちが
 福祉村病院副院長 伊莉 弘之

第五十三番円明寺から第五十四番近見山延命寺へは海岸沿いの国道一九六号線で三五キロ、徒歩一〇時間、車で一時間。

延命寺は静かな里の山裾にある。仁王門は小さいが、参道の両側にはつつじの木が見事に手入れされていて、いまが十二月であることが悔やまれました。その先には売店もあり、お茶の接待をしてもらった。

その時に元気な声が聞こえてきた。あの七、八歳くらいの男の子と二十代後半の夫婦の三人連れの声とすぐにわかった。「またペースがびつたりになったね。」と中二の娘。「あの頭に黄色いタオルを巻いたおにいさんはどこにいるのだから。」と小四の娘。「こんな偶然があるのだね。」と妻。

延命寺の梵鐘は夜になると「いぬるいぬる」と囁き、松山城に持ち出されそうになった時には「いやーん、いやーん」と鳴いたので置き去りにされた。そのために一七〇四年に当時の住職が資材を投じて梵鐘を新しく製造した。



境内には、元禄時代の阿方の庄屋、越智孫兵衛の墓がある。彼は池普請の際に農民に麦粥を竹筒につめただけの弁当を持たせ、代官に直訴して年貢率を引き下げさせた。餓死者が一人も以上の享保の大飢饉の際に、この地方では一人も死者がでなかった。今でも毎年八月七日は孫兵衛の慰霊祭がここで行われている。



母がつぶやいた。「私の父親は香川県の出身でね、その親は仏教の関係の仕事ではなかったのだけど、何かの理由でね、それが思い出せないのだけど、小さい時そうねえ小学校に上がるかどうかって聞いているんだよ。だから、ちょうどね、あのひと達のような感じだったのかなと、そんな目で見てしまってたね。」「おばあちゃんのお父さんは高野山で修業したお坊さんだったよね。」と中二の娘。確かに私の母方の祖父は高野山で修業した僧侶だが、幼少時に両親と四国巡礼したという話はこの時まで知らなかった。

私たちのすぐ横で、七、八歳くらいの男の子と若い両親は経本を持たずに一心不乱に経を唱えていた。三人の白い遍路装束が眩しかった。しかし不思議なことに、あとで写真を整理した際に、あの三人の親子の姿はどの写真にも全く写っていないかった。

Vol. 26
 relay column
**さわらび会
 のわ**

福祉村病院 管理栄養士
山本 佳代子



御衣黄桜(ぎよいこうざくら)をご存知ですか?春になると、ソメイヨシノに遅れて、蕾は赤く、開花すると薄緑の花弁に緑色の筋が入り、開花後三日くらいで芯の部分から赤くなり、やがて花ごと落ちてしまう八重桜です。花弁の緑色の正体は葉緑体によるもので花弁の裏には気孔まであるそうです。他の桜との交配により生まれた品種で、中でも大島桜の影響が大きいです。御衣黄の由来は咲き始めの花の色が貴族の衣服の萌黄色に似ていたためとか。京都の仁和寺に古くから栽培されていたのが始まりと言われている珍しい桜ですが、沖繩を除く日本各地に百ヶ所以上で見ることができそうです。大岩町の伏見稲荷の境内には十五本の御衣黄桜があるそうです。今年も四月中旬頃、黄緑色の八重桜が咲くことでしよう。花弁が散らないことから、「一生添い遂げる縁起の良い花」と言われているそうです。縁起にあやかってみては如何でしょうか。

今回は、障害者支援施設珠藻荘 副施設長 田中 力さんです。



- ◆福祉村病院・シユゲム
- 2月16日 感染対策委員会
 - 18日 橋本先生によるCPC（理事長出席）豊橋市社会福祉協議会主催の認知症座談会（あいトピア）にて伊弉弘之副院長が助言
 - 23日 施設長会議 シユゲム に理事長出席 医療安全委員会
 - 25日 朝倉情報交換会（理事長出席）名古屋市シルバー人材センターシルバースタッフ（訪問介護員）全体研修会（名古屋市シルバー人材センター）にて小橋修院長が「認知症の正しい理解」認知症と「うまく付き合う」には」について講演
 - 3月1日 早稲川集会議（理事長出席）名古屋市シルバー人材センター主催の認知症講演会（名古屋市シルバー人材センター）にて伊弉弘之副院長が「認知症の正しい理解」について講演
 - 6日 岡崎市役所主催の認知症講演会（岡崎市役所）にて伊弉弘之副院長が「認知症介護こんな時どうする」について講演
 - 9日 シユゲム幹部会
 - 10日 日総研主催の公開セミナー（田村駒ビル大崎市）にて伊弉弘之副院長が「認知症ケアマスター」（第1回）について講義
 - 12日 シユゲム家族会
 - 13日 施設長会議（シユゲム）に理事長出席
 - 15日 病院幹部会（理事出席）
 - 18日 エーザイ株式会社およびファイザー株式会社主催の刈谷認知症セミナー（刈谷フラスホテル）にて伊弉弘之副院長が「BPSDへの具体的な対応」について講演
 - 24日 社会福祉法人さわらび会の理事会設議委員会（理事長出席）
- ◆さわらび荘
- 2月17日 特養ケアマネジャー研修（安藤 東海市）
 - 浅見 蓮東三河ブロック研修（白井秀、浅見、日下部、つじが丘）
 - 18日 介護サービス情報公表の調査
 - 19日 地域包括支援センター業務打ち合わせ
 - 22日 松山 市役所
 - 23日 県社協高齢者福祉事業部会 総会及び施設長・管理者セミナー（施設長、名古屋）
 - 24日 園域ケア会議（松下、渡邊憲、勝山、千駄、松井、つじが丘）
 - 25日 愛老協ユニットケア研修（河邊、名古屋）
 - 26日 保健師研修会（松下、市役所職員会館）
 - 27日 認知症サポートチーム養成講座（松下、白井秀、勝山、金田、ケアハウス金田）
 - 28日 愛老協愛知県大会（施設長・尾上、小久保、名古屋）

- ◆第二さわらび荘・カサデローザ
- 2月16日 東海北陸ブロック老施設運営委員会（山本施設長、富山）
 - 17日 特養ケアマネジャー研修（井上 東海市）
 - 18日 認定審査会（長坂、市役所）
 - 19日 県社協高齢者福祉事業部会 部会委員会（山本施設長、名古屋）
 - 22日 認定審査会（長坂、市役所）
 - 23日 市役所防犯ネットワーク運営委員会（山本施設長、あいトピア）
 - 24日 愛老協ユニットケア研修（白井久、名古屋）
 - 25日 市介護保険関係事業者等連絡会運営委員会（山本施設長、市役所）
 - 26日 愛老協愛知大会（山本施設長、松原、酒匂、鈴木祐、名古屋）
 - 27日 県社協福祉人材センター運営委員会（山本施設長、名古屋）
 - 28日 愛老協介護士研修（松原、加藤、蒲郡）
 - 29日 全老協福祉大業務執行会議（山本施設長、東京）
 - 3月1日 松下社会福祉事業福利厚生基金連運委員会（山本施設長、名古屋）
 - 2日 認定審査会（長坂、市役所）
 - 3日 市介護保険関係事業者等連絡会全大会（山本施設長、長坂、東郡、野崎、谷川、市公会堂）
 - 4日 県社協社会福祉施設経営者委員会常任委員会（山本施設長、名古屋）
 - 5日 県社協社会福祉施設経営者委員会総会及び経営者セミナー（山本施設長、名古屋）
 - 25日 ケアマネ相談窓口（浅見、名古屋）
 - 26日 愛老協介護士研修（富岡、蒲郡）
 - 27日 地域包括支援センター職種別ケア会議（勝山、尽誠堂）
 - 28日 浪ノ上老人クラブ定例会、地域啓発推進事業（松下、白井秀、勝山、金田）
 - 29日 浪ノ上区画整理記念館
 - 30日 職種別地域ケア会議（白井秀、つじが丘）
 - 31日 愛知県GHI協三役会（施設長、名古屋）
 - 1日 市介護保険関係事業者連絡会（施設長、白井秀、渡邊憲、浅見、日下部、千駄、松井）
 - 2日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、10日、奈良、尾上、東京）
 - 3日 地域包括支援センター保健師ケア会議（松下、赤岩荘）
 - 4日 白珠 介護保険勉強会
 - 5日 介護現場における人権と介護研究会（鈴木啓、名古屋）

- ◆若菜荘
- 2月17日 全国老施設21世紀委員会（施設長、東京）
 - 19日 喫茶なかよし
 - 20日 県社協高齢者福祉事業連絡部会（施設長、名古屋）
 - 21日 誕生会
 - 22日 愛老協愛知大会（施設長、名古屋）
 - 23日 各施設別会議
 - 24日 食生活会議
 - 25日 防災訓練
 - 26日 若菜会地域活動日
 - 27日 若菜会役員会
 - 28日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、10日、金子、東京）
 - 29日 懇談会
- ◆あかね荘
- 2月17日 支援会議
 - 18日 施設内研修
 - 19日 地域事業所支援会議
 - 20日 誕生会
 - 21日 三二経営会議
- ◆珠藻荘
- 2月17日 福祉レクリエーション入門講座（金子、あいトピア）
 - 18日 第3回東海北陸身障施設長会（施設長、石川、19日）
 - 19日 田原市南部小学校「命の集い」講師（田中、田原南部小学校）
 - 20日 重症心身障害児（者）関係施設等職員研修会（西井、岡崎）
 - 21日 相談支援機関連絡会（田中、松井伸、さくらピア）
 - 22日 福祉レクリエーション入門講座（金子、あいトピア）
 - 23日 愛知県身障施設長会（施設長、名古屋）
 - 24日 東三河南部障害福祉圏域会議（松井伸、東三河総合庁舎）
 - 25日 県社協自立支援協議会人材育成部会（松井伸、名古屋）
 - 26日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、鳥居、東京）
 - 27日 自治会役員会
 - 28日 自立支援協議会部会支援部会（松井伸、市役所）

- ◆しろがね
- 2月16日 さなえ会 おやつ奉仕
 - 23日 TFM合唱団来荘
 - 24日 地域保健福祉ハイオンア育成事業研修（金田、豊川）
 - 25日 TFM合唱団来荘
 - 26日 新送迎バス納車
 - 27日 TFM合唱団来荘
 - 28日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、東京）
- ◆明日香
- 2月17日 福祉の店販売（山本、名古屋）
 - 18日 ケース会議
 - 19日 生活介護事業個別面談（26日）
 - 20日 職員勉強会
 - 21日 主任会議
 - 22日 防災訓練
 - 23日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、10日、藤井陽、東京）
 - 24日 宝陵高等学校実習（12日）
 - 25日 自治会・工場
 - 26日 イエローシート交換会（ジャスコ豊橋南店）
 - 27日 家族会役員会
 - 28日 12日
 - 29日 11日
 - 30日 11日
 - 31日 12日
- ◆各施設共通
- 2月16日 グリーンロード整備
 - 17日 在宅医療福祉部会
 - 18日 施設長会議
 - 19日 障害者担当会議
 - 20日 栄養士会議
 - 21日 在宅医療福祉部会
 - 22日 福祉村クリニック運動
 - 23日 大規模震災における安全確認作業部会
 - 24日 法人理事会、評議員会
 - 25日 施設内研修「ストレンジス・モデルで作成する個別支援計画」長所（よい）を活かして自立につなげる支援」
 - 26日 カーテン交換
 - 27日 語りへの会
 - 28日 経営会議
 - 29日 知的障害者協会施設長会（施設長、名古屋）
 - 30日 来訪日
 - 31日 チャリティー共催祭「語りへの会発表会」
 - 1日 全老協社会保険障フランチセミナー（施設長、10日、柳、東京）
 - 2日 カーテン交換
 - 3日 田原市自立支援協議会（中陳、田原）
 - 4日 可知病院及の会カラス拭きボランティア受入
 - 5日 豊橋市保健所管内栄養士会（小田、豊橋創造大学）

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成22年2月15日～3月14日

市内牧野町90	小松ウメ氏	5,000円
市内入舟町21	(株)三恵薬品	20,000円
市内野依町字西物草12	家具の街ヨコモブランド	10,000円
新城市南畑 74	光田屋(株)	10,000円
市内小池町36-1	共和印刷(株)	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井良治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林 昭氏	10,000円
市内萱町30	(株)中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	鈴木弘生氏	10,000円
市内間屋町15-5	(株)スズケン	10,000円
市内東新町314	(株)日医工新和	10,000円
市内東田町154	(資)竹田商店	10,000円
市内東脇三丁目1-17	森田由利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス(株)	10,000円
市内神野埠頭町2	神野臨海(株)	10,000円
市内野依町山中19-14	医療法人さわらび会 理事長 山本孝之氏	1,200,000円
市内野依町山中19-14	福祉村病院職員有志	3,000円
	匿名希望氏	29,884円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	10,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。
計 **1,458,884円**
現在までにご寄附いただきました金額は
831,272,578円

ご寄付は、さわらび会の病院・施設なら、どこでも受け付けております。皆様の御協力をお願い致します。

みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人

さわらび会後援会からの
お願い

さわらび会後援会では、広く社会の善意のある方々に後援会員になっていただき、そのあたたかい浄財をもって福祉村の建設並びに運営していくよう支援しております。

皆様方の、ご入会を心からお願い申し上げます。

後援会会長 神野信郎

●お問い合わせは 珠藻荘 ☎(0532)47-1050まで

＊お礼コーナー ありがとうございます＊

※印は豊橋善意銀行を通して

- ▼荻野陽三様 ねぎ奇譚(珠藻荘) ▼後藤日富様 手作りケーキ奇譚(あかね荘)
- ▼長坂稔様※ ねぎ奇譚(珠藻荘・明日香・若菜荘・第二さわらび荘)
- ▼珠積水テクノ様 車イス奇譚(珠藻荘) ▼金井秀雄様 カステラ奇譚(あかね荘)
- ▼珠花玉様 石鹸・衣類洗剤奇譚(さわらび荘・第二さわらび荘・明日香・若菜荘・あかね荘)
- ▼木下サーカス様 招待券奇譚(明日香・珠藻荘)

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成22年2月11日～3月10日

瀬戸市菱野台2-29	野田真澄氏	10,000円
名古屋市中区新栄1-7-12	東海労働金庫	3,200円
名古屋市中村区竹橋町35-28	増子和郎氏	10,000円
大阪府和泉市府中町5-1-4	辻村美智氏	2,000円
名古屋市名東区高柳町902	清田武男氏	10,000円
名古屋市名東区亀の井1-72-1-203	村田謙治氏	1,000円
石川県小松市上本折町265	竹田外喜男氏	1,000円
瀬戸市東十三塚町6	小林喜一氏	1,000円
鹿児島県鹿児島市平之町9-9-203	川崎 淳子氏	10,000円
大分県大分市古国府7-1	牧 三千子氏	5,000円
名古屋市昭和区山花町50	医療法人 生寿会 理事長 酒井宏氏	50,000円
長野県長野市平林1丁目6-11	降旗伸子氏	3,000円
市内野依町字山中19-16	谷 さゆり氏	5,000円
静岡県浜松市北区細江町三和391-4	菊地敏弘氏	1,000円
静岡県浜松市北区豊岡町22	浜松市立豊岡幼稚園	7,000円
名古屋市千種区鹿子殿19-12	中川三千代氏	5,000円
名古屋市北区大曾根3-16-37	柴田昌雄氏	5,000円
市内野依町字山中19-12	インド福祉村病院 募金箱	20,086円

計 **149,286円**

募金方法(インド福祉村)

- 振込先 郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008 加入者名 インド福祉村協会
- 連絡先 軽費老人ホーム若菜荘 ☎0532-48-1138まで

●福祉用具紹介のコーナー

ブレイラプラス

床ずれ予防のベッドパッドです。

特殊な素材を使用しているため、クッション性や通気性、通水性に加え耐久性にも優れています。既存のマットレスの上に敷くだけで、耐圧分散機能がアップします。丸洗いもでき、軽量なので持ち運びにも便利です。



◎三次元立体編物
(フュージョン)使用

問い合わせ先

要介護2以上の方なら
どなたでもレンタル可能です。
価格はお問い合わせ下さい。

- 福祉村指定居宅介護支援事業所 ☎(0532)46-3566
- さわらび指定居宅介護支援事業所 ☎(0532)54-7377
- 福祉村病院訪問看護部 ☎(0532)46-7511(代)
- 福祉サービス株式会社 ☎(0532)66-1011

(福祉村指定居宅介護支援事業所 鳥山)

福祉村保育園

劇あそび



青組では、「大きなかぶ」「3匹のこぶた」「七ひきのこやぎ」など、日頃親しんでいるお話から、劇遊びへと発展させ楽しんでいきます。「大きなかぶ」では、子ども達がおじいさんやおばあさん、まごや犬などの役になりきり、「うんとこしょ、どっこいしょ」とリズムカルな台詞を楽しみながらかぶを抜きました。かぶが抜けると子ども達は、「やったあー」と大歓声！「みんなでお料理して食べようね！」と子ども達の想像力がさらに広がっていきます。(鈴木節)



うんとこしょ。

どっこいしょ。



福祉村保育園 青組のみなさん

充実した医療と福祉 みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人 医療法人 さわらび会 理事長 山本 孝之

- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎(0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ
☎(0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若菜荘
☎(0532) 48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘
☎(0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎(0532) 48-2825
- 福祉村病院
☎(0532) 46-7511
- グループホーム白珠
☎(0532) 66-0082
- 障害福祉サービス事業所 明日香
☎(0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎(0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東雲町)
☎(0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532) 46-7501
- 田原市障害者生活支援センター(市委託)
☎(0531) 45-3828

「表紙写真」「桜と子どもたち」(福祉村保育園)

編集後記

四月、そして桜の季節。新しい年度を迎えるこの四月は、学校には新入生が入り、職場には新人が入り、何か街中全体がフレッシュな気持ちになる季節です。今月号の特集でお伝えさせて頂いたように福祉村が今年四月で三十歳を迎えました。その特集を組みながら福祉村の始まりから現在までを考えると、三十年という歳月には本当に重い意味があるということを感じました。福祉村は三十年ですが、さわらび会としては医療法人が四八年、社会福祉法人が三年の歴史を持っています。私たちはこの歴史を大事にしながら、そして常に前を向きフレッシュな気持ちを持ち続け前進して行きます。そしてその最新の情報をこのさわらび誌でお伝えさせて頂きます。これからもどうぞよろしくお願致します。(江川)

さわらび

2010年4月1日発行 早蕨 第44号 毎月1日発行
(昭和62年2月21日第三種郵便物認可)
編集責任者：江川和郎 印刷：共和印刷(株) 定価：100円